

美しい山形・最上川フォーラム 第46回清流・環境対策部会 及び最上川文化・地域経済活性化部会合同部会 会議録

- 日 時 令和2年12月4日（金）13:00～14:45
- 場 所 山形県村山総合支庁本庁舎 402 会議室
- 出席者 23名（事務局を除く）

【議 題】

令和2年度部会事業実施状況について

- (1) 清流・環境対策部会
- (2) 最上川文化・地域経済活性化部会
- (3) 地域部会 通常総会・運営委員会・部会
- (4) 委託事業・助成事業など

【協議概要】

1 開 会（13時）（進行：斎藤事務局長）

定刻となり、斎藤事務局長が開会を告げ、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う留意事項について説明するとともに、協議においてこれまでの振返りと今後の展開についても忌憚のない意見をお願いした。

2 あいさつ

菅原幸司清流・環境対策部会長が、新型コロナ禍に伴う危機感や事業の遅れが生じていること、20周年に向けて新しい取組みを考えたいことなどを述べた。

本間義衛最上川文化・地域活性化部会長が、新型コロナ禍に伴い当初計画した事業の中止や延期が相次いだこと、今年度残期間における事業推進についての協力要請などを述べた。

3 協 議

令和2年度部会事業の実施状況について

(1) 清流・環境対策部会

・事業実施状況について菅原部会長が資料に基づき説明した。

→ 今野正明 最上川229ネットワーク共同代表：最上川流域に増殖するブラックバスについて、自分も内水面漁協の協力を得てたびたび調査を実施してきたこと、白鷹町が予算化してブラックバス・ロングラン釣り大会を実施することとなり、10月末で116kg286匹が採捕されたことは大変深刻な状況を物語っている。日本生態系協会のある方とやり取りをしてきたなかで、環境DNAという調査があるが、山形県理化学分析センターに問い合わせたところ装置がなく外部委託となるとの回答であった。当部会が行っている水質調査と環境DNA調査を組み合わせられないか。そうすれば具体的な対策も見えてくるのではないか。来年度の事業として検討願いたい。

→ 大泉茂副部会長：今、環境DNAは話題になっており、そういう需要があるのであれば対応を検討していきたい。各市町村の指導をいただきながら、フォーラムとしても大きな動きになるように頑張ってもらいたい。

→ 菅原部会長：率直に言わせてもらおうと、こういう基礎的な調査は県が行うのが一番いいと思う。フォーラムでやるのは予算的に厳しいし、ニーズがどのくらいあるのか読めない。これからいろいろ議論していきたいと思う。

→ 今野氏：釣りをしているたくさんの人達を集めて手伝ってもらうことは可能でないかと思う。若者達からは、少しでも駄賃を貰えるなら本気になってやる、

との話も聞いた。支障木があって川に近づけないという問題もある。

我々がそういう若者たちの声を拾い上げていくことで地域の活性化につながり、産業が生まれてくるのではないか。最上川本来の魅力もそこから生まれてくると考える。

- 本間部会長： ブラックバスの駆除に対する報酬はあるものなのか。
- 今野氏： 白鷹町では、1 kg 5 0 0 円で買い取って貰っている。微々たる金額だが、若者のニーズに応じていけばいいのではないかと思っている。
- 菅原部会長： ブラックバスも水産資源だという意見も聞いたことがある。駆除の名目で勝手に釣りをするのは問題にならないか。
- 今野氏： 漁協の考え方もいろいろあって、お金はいただきたいという声もあるし、有効利用に向けた動きもあるようだ。
- 斎藤事務局長： この問題については、一方でバスフィッシャーの存在もあり、もう一方で自然環境（生態系）保全が最優先という意見もあり、長らく論争が続いていると認識している。当フォーラムとしては、様々な立場を越えて議論して解決策を見出していくということに尽きると思う。

(2) 最上川文化・地域経済活性化部会

- ・ 事業実施状況について本間部会長が資料に基づき説明した。
補足として、かつて行っていた桜の植栽は、山新さんが積極的に進めているので、当フォーラムとしては、現在は桜の維持管理と桜守の育成に注力していると説明した。
 - 今野氏： 我々の世代は桜の古木を愛でるが、若い世代は桜並木を好む傾向があるようだ。各市町村にある桜並木を情報発信していけば、地域活性化になるのではないか。
 - 本間部会長： 機会があったら、桜並木に力を入れていただくよう山新にお願いしてみたい。
 - 菅原部会長： 情報発信に際して、古木と並木はジャンル分けした方が良いのではないか。
 - 本間部会長： 月山新道にも桜並木を作るとか。壮大な計画もあっていい。
 - 今野氏： 置賜では「鷹山ロードをつくる会」が 42.195 km の桜並木をつくらうというプロジェクトを 10 年位前から進めている。
 - 斎藤事務局長： 先般お願いした会員アンケートの回答を見ても、夢の桜街道事業を大事にしたいという意見が多数あることが分かった。これまで植えた桜がどうなっているか、どのようにして地域活性化につなげていくのか、市町村とも連携して、しっかりと検証する必要があると考えている。

(3) 地域部会、通常総会・運営委員会・部会、(4) 委託事業・助成事業など

- ・ 置賜地域部会の事業実施状況について久保道典部会長が資料に基づき説明した。
補足説明として、本間部会長から小国町のスポ GOMI 活動における新潟県境赤芝ダム駐車場のゴミ投棄の実態を報告、安部明子事務局員から白鷹町での活動が新型コロナウイルスの影響で中止になったが、上流域での海岸漂着物啓発委やクリーンアップの活動を小国町や長井市で実施したことなどを報告した。
 - 今野氏： ゴミを捨てさせない対策として、鳥居を建てると効果がある。
- ・ 庄内地域部会の事業実施状況について阿部等部会長が資料に基づき説明、鶴岡高専において川底のゴミ調査と指標化に取り組んでいることなども紹介した。
- ・ 村山地域部会及び最上地域部会の事業実施状況について、通常総会・運営委員会・部会について、委託事業・助成事業などについて、斎藤事務局長が資料に基づき説明した。

以上の協議を経て、全ての内容について承認された。

4 その他

- ・久保置賜地域部会長から、桜の寿命や病気に関して全県的な状況について知りたいとの質問があり、山田寛爾さんが樹木医の立場からエゾヒガンとソメイヨシノの違いや長命化のために必要なことなどについて説明を行った。
- ・大泉茂清流・環境対策部会副部会長から発言機会を求められ、一般財団法人山形県理化学分析センターから「スポーツゴミ拾いの活用・推進策（仮）Yクレジットの導入についてのご提案」と題して説明があった。

(閉 会 14時45分)